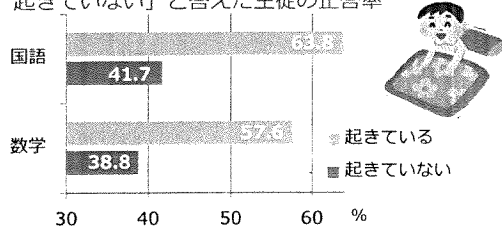


●生活習慣と学力は関係あるの？

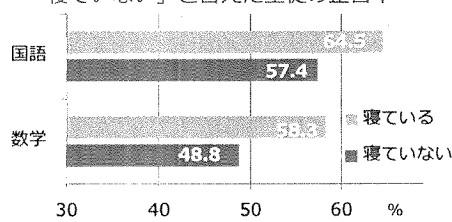
子どもたちの学力向上には、学校での授業や家庭学習の充実に加え、基本的な生活習慣や規範意識を身につけ、家庭生活を充実させることも欠かすことができません。下記のポイントについて、改めて確認してみましょう。

※回答項目(例:「している/どちらかといえば、している/どちらかといえば、していない/していない」のうち、「している/していない」など2つを取り上げて比較しています。)

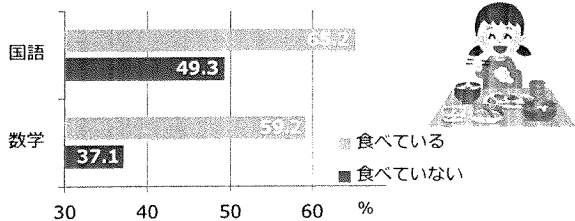
○毎日、同じくらいの時刻に「起きている/起きている」と答えた生徒の正答率



○毎日、同じくらいの時刻に「寝ている/寝ていない」と答えた生徒の正答率



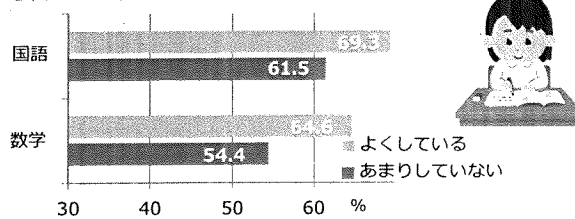
○毎日、朝食を「食べている/食べていない」と答えた生徒の正答率



□規則正しい生活習慣を身につけさせ、早寝、早起きを心がけることが大切です。

□毎日、朝食を食べている生徒ほど、正答率が高い傾向が見られました。

○自分で計画を立てて勉強を「よくしている/あまりしていない」と答えた生徒の正答率

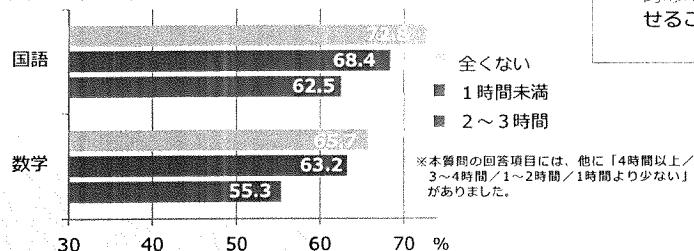


□自分で計画を立てて学習する習慣が身につけている生徒ほど、正答率が高い傾向が見られました。

□今後も家庭での学習も大切にして、計画的に学習する力を身につけていくことが大切です。

□スマホやPCなどは使用できる時間や場所を決めるなど、計画的な時間の使い方を身につけることが大切です。

○1日当たりのゲーム(PC、携帯ゲーム、スマートフォン等)時間と正答率



※本質問の回答項目には、他に「4時間以上/3~4時間/1~2時間/1時間より少ない」がありました。

加古川市教育委員会

〒675-8501 加古川市加古川町北在家2000

電話 079 (427) 9354 / FAX 079 (421) 4422



←加古川市の学力向上についての取組はコチラ

令和3年度 中学生版 加古川市の学力・学習

令和3年11月17日
総務教育常任委員会資料
教育指導部学校教育課

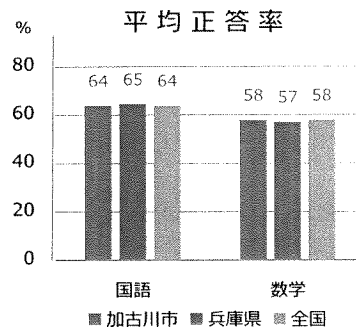
令和3年5月、全国学力・学習状況調査が行われました。

この調査は、児童生徒の学力・学習状況を分析し、成果と課題を把握し、授業改善を図ることを目的としています。この調査における加古川市の子どもたちの現状を分析し、結果をまとめました。

掲載している内容は、学力や学習状況の一部分であることを踏まえつつ、この結果を基に、授業改善や家庭と学校との連携のあり方について考えるきっかけとして活用し、これからの時代に求められる資質・能力の育成を図っていきたく考えています。

●国語・数学の結果は？

◎：成果 △：課題



国語

◎ 文脈に即して漢字を正しく読む。

△ 文章に表現されているものの見方などを捉え、考えを書いたり、段落相互の関係について考えたりする。

数学

◎ 文字式の計算や、グラフ等の値の読み取りを行う。

△ 図形の性質を元に、必ず成り立つ特徴を見いだして説明したり、表やグラフから値を求める方法を説明したりする。

○基礎的な知識やスキルは身につけていますが、思考力・判断力・表現力には全国と同様に課題が見られます。

○記述式問題の無解答率が全国と同様に高く、協同的探究学習による授業をさらに充実させることで改善が期待されます。

●苦手としているのはどんな問題？

国語

【作品紹介】の__部に関して、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。

また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の<条件>に合わせて書きましょう。

○文章の一部から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用する。

○考えを具体的に書くこと。

「吾輩」が「黒」を評価している表現を適切に引用していない解答が多く見られました。

【作品紹介】
中学教師の苦沙弥先生の家で暮らす猫「吾輩」から見れば、世の中には全く違って滑稽なもの、周囲の様子を観察し、横柄に評論するユキオアアふれる長編小説である本作は、漱石が三十八歳のときに発表して以来、多くの読者に愛されてきた。

【条件】
吾輩は猫である
吾輩は猫である

数学

2種類の三角定規を合わせた時にできる四角形について考えます。

点Gが辺BC上にあり、辺HIが辺BCと平行になるよう三角定規を動かしたときにできる四角形ARGSとします。

このとき、∠ARGと∠ASGの和はいつも180°になります。

このほかに、∠ARGと∠ASGの大きさについて、いつでもいえることを書きなさい。

∠ARG+∠ASG=180°と解答したり、角の大きさではなく位置関係などについて指摘したりした解答が多く見られました。

全国的に、自分の考えを言葉や図を用いて表現する力や、いくつかの資料を関連づけて考える力が求められています。本市では、そのような力を育むため、

協同的探究学習に取り組んでいます！！



●協同的探究学習でどんな力がつくの？

協同的探究学習とは、いろいろな考えが可能な問題に対して、一人ひとりの子どもが自分なりの考えを書き、クラスで考えをつなげて深める学習です。これからの時代には、自分で様々な知識を関連づけながら考え、他者と考えを共有し、ものごとの本質を理解していく「わかる学力」が重要になります。協同的探究学習により一人ひとりの「わかる学力」や自己肯定感が育ちます。



加古川市学力向上推進委員会顧問
東京大学大学院 藤村宣之 教授

自分で考える力がつきます！

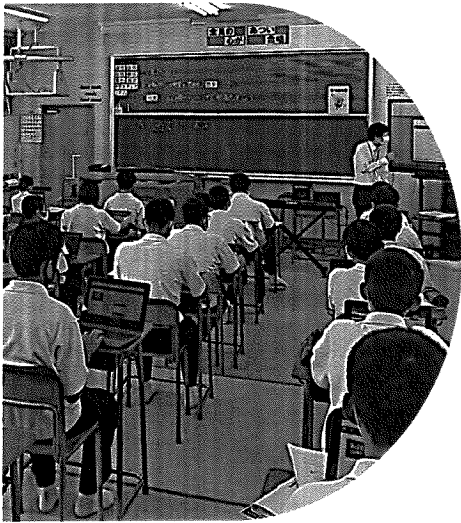
協同的探究学習では、解き方や考え方が1つではない問題を提示し、自分の力で解く時間をしっかりとっています。自分の持っている知識を使って、自分なりの方法で問題を解く力が身につきます。

あきらめずに自分なりの方法で解く力が身につく、無解答率が低くなります！！

根拠を明確にして書く力がつきます！

協同的探究学習では、理由や根拠を大切にしています。「なぜ、そう考えたのか」を一人ひとりが書くことで、資料や文章の中から、必要な情報を読み取り、理由や根拠をはっきりさせて、表現する力が育まれます。

全国的に課題となっている、資料を基に表現する力が身につきます！！

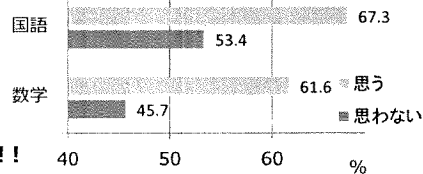


学級全体で考えを出し合うなかで、新たな気づきが生まれます！

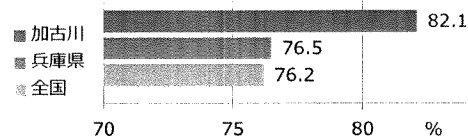
協同的探究学習では、学級全体で共有することを大切にしています。自分の考えや友達からの考えから違いやつながりを見つけたり、新しいものの見方・考えに気づいたりするなかで、自身の考え方の幅が広がり、理解が深まります。

違う意見について考える学習で楽しさを感じることは、学力向上につながっています！！

○違う意見について考えるのは楽しいと「思う／思わない」と答えた生徒の正答率
※本質問の回答項目は、他に「どちらかといえば思う／どちらかといえば思わない」がありました。



○自分には、よいところがあると答えた生徒
※「ある」、「どちらかといえば、ある」と回答した割合のみ表記しています。



友達や先生から自分の考えを認めてもらうことで、自分のよさに気づき、自己肯定感が高まります。今回の調査では、「自分には、よいところがある」と感じている生徒の割合は全国平均を大きく上回り、協同的探究学習の成果が表れてきています。

●「わかる学力」を家庭で育むことはできるの？

※回答項目（例：「している／どちらかといえば、している／どちらかといえば、していない／していない」のうち、「している／していない」など2つを取り上げて比較しています。

お子さんの考えに耳を傾けて、認め、励ましましょう！

自分のよいところが認められていると思った生徒ほど、正答率が高い傾向が見られました。お子さんの「やる気」につながるかわりができているか、日ごろから心掛けることが大切です。

- お子さんの思いを受けとめたり、努力を認めたりする。
- 取り組んだことで気づいたよい点をお子さんと共有する。

様々な話題で会話をしましょう！

相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受けとめようとして自分の考えをしっかりと伝えている生徒ほど、正答率が高い傾向が見られました。

ご家庭でも、様々な話題で会話をすることで、お子さんが広い視野でものごとを見ることができるようになります。

- 新聞記事などの時事問題をテーマに話し合う。
- お子さんが興味をもっていることを話題にする。
- いっしょに料理や作業などをしながら話をする。

読む習慣を身につけましょう！

ふだんから読書をしている、または身近なところにある生徒ほど、正答率が高い傾向が見られました。

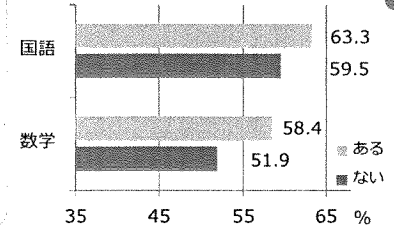
読書をしたり新聞を読んだりすることで、知識や情報を得たり、他の考えに触れたりすることができます。読む習慣を身につけさせるためには、次のような方法があります。

- 面白かった本を家族で紹介し合い、お互いの本を読み合う。
- 親子で一緒に図書館に行く。
- 1日の中で「読む時間」を決めて、みんなが読書に取り組む。

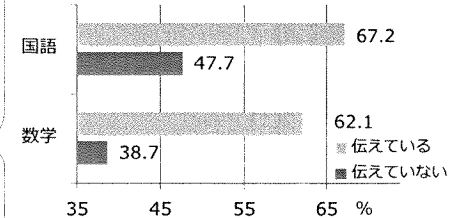
日本子どもたちには、自分の考えに自信が持てず、表現できないという傾向がみられます。子どもは本来、自分の思いや考えたわけを表現したい、受けとめてもらいたいと思っています。家庭での会話を通じて、「そうだったんだね」「なるほど」「わかるよ」と子どものことを肯定的に受けとめることで、自己肯定感や「わかる学力」が育ってきます。



○自分にはよいところが「ある／ない」と答えた生徒の正答率

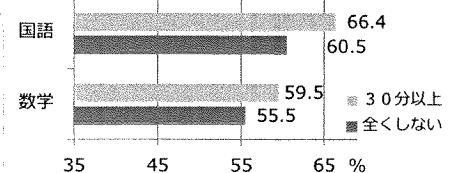


○相手の考えを聞き、自分の考えを伝えて「いる／いない」と答えた生徒の正答率



○1日当たりの読書時間による正答率

※本質問の回答項目は、他に「2時間以上／1～2時間／10～30分／10分以下」がありました。



○家にある本の数による正答率

※本質問の回答項目は、他に「11～25冊／26～100冊／101～200冊／500冊以上」がありました。

